

水の取り組みを進めている」との答弁でした。また、土砂災害対策では『治山や急傾斜地の事業にあたり、保全対象の個数などに応じて、県と市町村が役割分担しながら整備を進めると共に、住民の適切な避難行動を促すため、河川水位計や監視カメラの整備、ハザードマップの作成など、市町村と連携した防災情報提供にも取り組んでいる』とのことでした。

4 点目は、直轄道路区間の管理改善についてです。

東九州自動車道の内、佐伯～北川の間は、国交省による「新直轄」という建設手法でしたから、「一般の高速道路と比較して管理が遅れている点がないか」と質問しました。

『管轄は延岡河川国道事務所の管理であるが、路面に課題のある区間も見受けられる。大分県としても適切な維持管理を国に求めている』と応えました。最後、5 点目は、**近隣商業地域でのマンション建設について**再度質問しました。

広大に広がる「第一種低層住宅専用地域」の都市計画区分にある「近隣商業地域」に高層マンションが立てられる道理がないとの問題意識で、再度、県の考え方を質しました。これに対し『現在の用途地域指定による土地利用規制のみでは、今後、

多様化する課題に対応できなくなることから、広域的な見地で都市の将来像や方向性を示す都市計画区域マスタープランの改定を進めているところである。市町での計画策定は、県との協議が必要であることから、今後適切な助言をしていく』と応えました。今後、同様の問題が発生しないよう強く求めました。



一般質問



たまた てるよし
玉田 輝義
(豊後大野市)

ヤングケアラーについてご存知ですか？

ヤングケアラーとは、国レベルの統一的な定義はありませんが、一般的に、「本来、大人が担

うと想定されるような家族の介護、世話、家事等を行っている18歳未満の子ども」とされています。家族の介護等によって、学校に行けない、友達と遊べないなどの状況が生まれ、本来守られるべき子どもの権利が侵害されることがあります。そしてその結果、成長する機会や心身の健康が損なわれ、その将来に影響を及ぼす可能性があります。

しかしながらヤングケアラーの状況は、自らが置かれた環境が当たり前だと考えていること、家庭のことは知られたくないと思っていること、どうせ言っても理解されないという諦めや思春期の羞恥心などから表面化しにくいと言われます。

また虐待被害などで保護が必要な子どもを支援する、要保護児童対策地域協議会に対して行われた厚生労働省の調査では、ヤングケアラーの概念を認識している協議会は、平成30年度が27・6%、令和元年度が46・7%となつているように、福祉・教育関係者などの支援者の側の認識は徐々に高まっていますが、一般的にヤングケアラーに対する認識は高まっていないのではないかと思います。

学校の先生や地域の大人に対して自分が置かれている状況を伝えることを諦めたヤングケアラーが県下にいるかもしれない

と思うと胸が痛みます。

そうした中、国は今年12月にも、初の実態調査を、学校を通じて、児童・生徒に直接アンケートをとる形式で行う予定と聞いていますが、県でも、必要な補足調査を実施するなど、より正確に実態を把握するとともに、ヤングケアラーに関する社会の理解を促進し、支援につなげる環境を整える必要があると考えます。

現在の県下のヤングケアラーの現状と取組状況について尋ねました。

質問に対して、福祉保健部長から次の答弁がありました。

- ① ヤングケアラーのうち、家事・育児・介護等のため、欠席や遅刻が多いなど学業に差し支わりが出ている場合や本人の清潔が保たれていないなどの子どもについては、市町村要保護児童対策地域協議会(以下「要対協」と表記します)が支援していること。
- ② 要対協では、児童福祉担当課や学校、スクールソーシャルワーカーをはじめ、福祉サービス事業所など関係機関と連携を図ること、世話しているきょうだいの保育所入所や、家族の福祉サービス利用等に繋げていること。
- ③ また、本人が望んでも登校できないほど子どもの負担が重い場合などには、児童相談所が子

どもを一時保護したうえで支援方法を検討し、状況によっては施設等での生活を勧めることもあること。

- ④ 一方で、本来大人が担う介護等を周辺に気付かれないまま日常的に行っている子どもの実態は十分に把握できていないこと。
- ⑤ こうしたヤングケアラーは表面化しにくく、孤立している可能性があるため、今後実施される国による実態調査の結果をもとに、教育委員会とも連携して対応を検討していくこと。

要約すると以上の5つになりますが、このうちで重要なのは④だと思えます。私は、国の調査に上乘せして介護現場のケアマネージャーや障がい福祉の現場の相談支援員への調査を行うべきだと思います。ヤングケアラーに対する支援政策はこれからが本番。多くのかたに関心を

